

PTA あきた



(1)PTAあきた

2013.12.19 No.123

【発行】秋田県PTA連合会
 【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
 TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
 E-mail: pta-akita@helen.ocn.ne.jp
 http://www.pta-akita.com



～みんなで育てる 秋田の子ども～



PTAチャリティフェスタから

もくじ

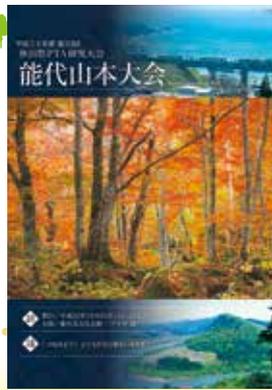
秋田県PTA研究大会能代山本大会 研修会・特別講演	2～3
東北ブロック研究大会福島大会	4
日本PTA全国研究大会みえ大会	5
日本PTA全国協議会会長表彰・三行詩コンクール入賞者	5
優良PTA文部科学大臣表彰 PTA活動振興功労者表彰	6
地域サポーター養成講座	7
PTAチャリティフェスタ 県生涯学習課からのお知らせ	8



10月19日教育フォーラムから

平成25年度 第39回 秋田県PTA研究大会 能代山本大会

Noshiro Yamamoto Rally



能代市において、平成25年10月26日～27日にかけて「つなげよう！ 子どもたちに明るい未来を！」を大会主題として、県内各地から430余名の参加をえて、能代市文化会館を会場に子どもたちの発達段階に応じたインターネットの利用を考えたほか、親子のコミュニケーションの大切さや子どもを受け止めて見守っていく子育てについて熱気あふれる研究会が行われました。その講演抄録を報告いたします。

研 修 会

演 題

「大人が支える！ インターネットセーフティと秋田のこどもたち」



講 師 高橋大洋氏

秋田県インターネットセーフティ推進委員会委員
「子どもたちのインターネット利用について
考える研究会」事務局長

Ⅰ 最新のインターネット、スマートフォンの状況

- 1 社会がインターネット利用に期待を持つようになった。
- 2 子どもたちが発信・参加前提のサービスでいきなりデビューする。
- 3 携帯型ゲーム機など隠れネット機器が普及している。

Ⅱ 具体的な取り扱いとして

インターネットを使う前に知っておくべき四つのポイント

- 特性1 インターネットは公開されている。完全な保護はない。
- 特性2 インターネット上には匿名制はない。
- 特性3 書き込んだものは取り消せない。
- 特性4 インターネットでの発信の失敗はこれからの人生に影響する。

インターネットデビューの4段階
体験、初歩的利用、習熟。18歳まで。

最初はサイトの閲覧。次にメールの送受信。次が自分の管理ページを認める。最後が同期的対話利用、具体的に、ツイッター・ライン・フェイスブックはこの段階のサービスであります。進むには2つの種類の力が必要、モラル・コミュニケーション能力面の力と知識とかスキル面で必要な力。メールを使えるようになる前に、ちゃんと文章が書けるのか、相手の気持ちを考えて行動ができるのか。実際には全くこれ真逆になっている。いきなりメールも知らずにラインから始めてたり、ラインの本人認証のためにフェイスブック登録してみたり、難しいところからむしろ始めていく現実があります。区切りをつけるのがフィルタリングです。不適切なコンテンツサイトをブロックしてやること以外に、コミュニケーションサイト、発信参加型系サイトを封じる。見るだけのサイトは使ってもいい。ゲームとか動画だけ網をかけることができるわけです。

トラブルをどうやったら減らせるんですか。子どもたちに言ってやらなきゃいけないのは、プライバシー情報をいかに書かないで楽しむかということです。プライバシーは本人の顔とか名前とか電話番号とか住んでるところ、友達の顔とかをプライバシーと思う必要があるわけです。4つの特性ということを誤解している子どもが非常に多いので、わかった上で、プライバシーを大事にしなさいと指導をする必要がある。

オンラインコミュニケーションの特性。機械越しにコミュニケーションをとるって難しいということ子どもにきちんと伝えてやる必要がある。性犯罪の事例にありましたけれども、相手のプロフィールは、話半分で聞いておかなきゃまずいということです。いくらでも嘘は書けるわけです。テキストだけで、ラインのスタンプだけでやり取りできる情報量っていうのは、会っ

て話をするの本当に数%にしかならないわけです。食い違っていくのが当たり前。だから、オンラインだけに頼って友達とやり取りしていくっていうのは、絶対にどっかでうまくいかなくなるのだということを知った上で、補助的に使うんだということを知る必要がある。

トラブルは残念ながらゼロにはならないです。1回起こしてしまったトラブルを隠したり嘘をついてなんとかしようと思えば思うほど大きいトラブルになりますから、その芽を防ぐということでご家庭で保護者の方が果たす役割は非常に大きい。誰も経験したことがない状況に今来ているわけです。1人でなんとかしようという状況はすでに超えてしまっていて、いかに大人同士が情報交換できるのか、助け合えるのか、困っているということを声を上げて言えるのか。あるいは自分の子がこんなトラブルに遭ったよと、周りの子も同じようなトラブルに遭わないように気をつけてくださいという事例の提供をするみたいなことができななきゃまずい状態だということ。少なくとも子どもときちんと話ができる関係をちゃんと保つということ。何かちょっとでもしくじったことを親に打ち明けたら、すぐ取り上げだ、禁止だと挑発的な態度をとると、子どもはちっちゃいトラブルを起こしたときに、親に言わずに何とかしようとするわけです。ルールを押しつけて子どもだけを変われ、お前安全に使えるようになれという方が時々いらっしゃるんですが、これはなかなか道理として筋道が立たない話であります。大人が見本を示す、大人自身が変わる必要があると思っております。どのぐらい自分が余裕を持ってインターネットと付き合うのか。家では携帯電話が多少鳴っても出る必要がないということを親が実行できてないのに、子どもにお前食卓で使うなと命令するわけですけれども、うまくいくわけがないです。

問題は危ない・怪しいサイトには気をつけなければいけません。子どもたちが起こしているトラブルのほとんどは普通のサイトなんです。女の子の事故は出会い系サイトに登録したわけじゃない。自分の友達と遊んでいるコミュニティサイトで遊んでいただけなのに、悪い男につけこまれたということです。だから、子どもたちにはきちんと4つの特性を言葉に出して教えて欲しい。理想のデビューは階段型です。どうやったらトラブルを減らせるかということも話をしましたが、いずれにしてもご家庭できちんと取り組んでいただくことが重要で、そのためには大人同士がきちんと助け合いをできるようなことが一番重要でありまして、これから子どもたちをきちんとしたインターネット活用、その手前にある安全利用ということに導いていくためには、皆さんのお力添えがより必要になってくるのかなと感じているところであります。

特別講演

演題 「親として今できること」

秋田県の三行詩コンクール(県PTA主催)入賞作品の由利本荘の5年生小川さんの作品に『いやなこと 心にたまるといやだから「あのね」で始まる 心のじゅう電 家族に話して 元氣満たん』。何か素晴らしい家庭が目に見えるようですよね。小学生だってやっぱり嫌なことがある。でも家に帰って、お父さんお母さんに「あのね、今日こんなことあったんだよ」「うんうん、そうか」、そんな受け止めてもらう中で元気を回復して、また学校に行ける。家庭はこうありたいものです。

「ココロが変わると態度が変わる。態度が変わると行動が変わる。行動が変わると習慣が変わる。習慣が変わると人格が変わる。人格が変わると運命が変わる。運命が変わると人生が変わる。」

1. 子育ての目標。 日本は盆栽文化だと思うんですね。あれは大木を見立てて、人々に見せるためにつくり上げたものです。はさみをパチパチ、栄養をあげてずっと世話をしなくちゃいけないんです。私たちの教育は、この盆栽教育になってないかと思うんです。子どもの個性云々じゃなくて、とにかく周りからどう思われるか、ちょっとでも違うとだめ、パチン、パチン。そして世話をしている子をつくり上げていく。私だったら盆栽じゃなくて、あの野山にそびえ立つ、大地にしっかりと根を下ろして、見た目は良くないかもしれない。でも雨が降ろうが風が吹こうがびくともしない。そして季節になると葉を茂らせ、実を実らせる、あんな大木のような子どもになって欲しいと思います。

2. 価値観。 実は価値観は、見る人は一緒でも、掛けるメガネによって、自分や周りや生活が変化していくんです。「being対doing」。beingっていうのは存在そのものです。いるだけで大切に思う。でもdoingっていうのは、何ができる、どれだけのことしてるといことです。価値観とは ①容姿で人の価値を決めない。美しさ・ファッションっていうのは、時代に、国によって何よりも人の好みによって違うことなんです。②すべてをなげうって単身で、生涯貧しい人のために尽くしたマザー・テレサ。心の豊かさが人々の人生を変えていく、正にモデルとなった人です。富、財産で人の価値は決まらない。③この方は小学校で不登校。商売は失敗。借金生活。政治家になりたくても落ちてばかり。新聞で毎日悪口書かれた。奴隷解放宣言を出したアメリカの16代目の大統領、アブラハム・リンカーンです。彼の人生は失敗、失敗です。将来希望ある子どもたちに、失敗したら「何やってんだ、もうだめな奴だな」じゃなくて、「大丈夫、次、チャレンジしてみようよ。やってみようよ」って、励ましてあげたらいいんじゃないですか。学歴、地位、成功で人の価値は決まらない。④比べないことです。よく兄弟がいる家庭で、気を付けなくちゃいけないと思います。いつも「お姉ちゃんはいいい子だった。勉強もよくした。でもお前はね」とかです。よく兄弟間で比較するんですけど、あれは心に傷になるんです。そして本当にその子のセルフイメージが破壊されていく。

3. ココロ。 今いろんな心の病気がある。でも子どもたちに心の話するのは結構難しい。忘れずに、心の一面を説明できないかなと。片仮名で「ココロ」って書けばそのことを説明できるし、子



講師 村岡 昇氏

NPOファミリーネットワーク代表

Profile

1962年北海道函館市に生まれる／函館ラ・サール、中央聖書学校卒業／現在、緑の牧場教会大館チャペル／牧師／NPOファミリーネットワーク代表／大館地区保護司／少年保護育成委員／大館国際情報学院PTA会長／秋田県高等学校PTA連合会副会長

もたちが「ココロ」って書くたびに思い出してくれる。例えば幸せな気持ちあります。これは心が安心していることを知らせます。逆に、怒り、悲しみはどうでしょう。でも悲しくもないのに涙が出てくる。楽しいことしたあとに怒りがこみ上げてくる。そんな経験ないですか。これは心が傷付いていることを、実は教えているんです。気持ちの言葉は、その子の心の状況を教えてることで「そんなこと言っちゃだめよ」「そんなこと思っちゃ絶対だめよ」、これは逆効果です。「そうか、辛いか」、そういうふうを受け止めてあげることがとっても重要です。心には出口があります。嬉しいときは大体人は誰かに伝えたいものです。伝えて喜んでもらえると実は嬉しさが倍増するんです。皆さん、風船を心だと思ってください。私たちの心って風船に少し似てます。小さい時から日々ストレスを感じます。ストレスは悪いことではありません。でも私たちが気持ちの出口を完全に塞いで、辛いこと、悲しいことも押し込めているんです。気付かないうちに心はどんどん膨らんでいく。本人も周りもわからないんです。そして人は言います。「我慢したもん。今回も大丈夫。前もできたから」、でも心は。(風船の破裂音)。どうなりましたか。心(風船)が破裂した。皆さん、体は内臓だったら手術したり移植したりできます。でも心が破裂してしまうと移植も手術もできません。破裂しないまでも私たち心(風船)が膨らんでいきます。結構忙しさとかいろんなことで、知らないうちに心がどんどん膨らんでいきます。そうしますと、今までだったら乗り越えられた気にしないことが、刺さってくるんです。(破裂音)。これ、切れるっていうんです。時々。どうでもいいことで、心がいっぱいいっぱいだとパンとなるんです。急に怒り出したり、もう暴力的になったりする。切れ方には2通りあります。その暴れちゃう方と、諦めちゃう方です。一番大きな諦め、何ですか。生きることを諦めるんです。秋田県、残念ながら自死率全国1位です。中学校・高校でも尊い命が自ら失われていく。学校ではいじめを調査します。でもいじめもない、その子はリーダーシップ持っていたいい子だった。なのになぜ。これは私の考えです。切れたんじゃないですか。もしかしたら小さい時からいい子で、負の気持ちを溜め続けてきた。自分も周りも気付かない。そしていっぱいいっぱい。そんなときにたまたまお母さんに怒られた。先生から注意された。破裂。生きるのを諦めよう。そして命を絶つということも考えられると思います。我慢は大切なんですけれども、出口を完全に塞いでしまうと心が病気になっちゃうと思います。

最後に、 どうぞ、私たちの愛する子どもたち一人一人大切な存在。愛すべき存在。違いはある、能力の違いもある。でも将来と希望がある。そんな子どもとして認めて、その眼差しで我が子も周りの子も、一緒に見て関わっていきたくと思います。子育てって、皆さん、大変ですよ。私たちも子どもを育てる中で、親も先生方も傷つきます。でも、もう一度今日学んだ眼差しで時間を掛けて子どもたちを包んでいきませんか。そしたらその結果はすぐに見ることはできないかもしれないけれども、やがて私たちの愛する子が、地域、いやこの秋田を担う輝く真珠へと変えられていくんじゃないでしょうか。

第45回 東北ブロック研究大会福島大会

ほんとの空の下で語り合おう！～見つめ直そうPTAの絆、私たちがすべきことの再発見～

第45回東北ブロックPTA研究大会福島大会が大震災復興の槌音高く響く中、福島県PTA会員の努力により、9月7日8日の二日間にわたって開催されました。今回は福島市を会場に初日の6分科会と二日目の全体会、登山家の田部井淳子氏の「人生は8合目から」記念講演を行い、改めて、「東北はひとつ」を胸に刻む大会となりました。



子どもたちのより良い環境づくりのために

秋田市立勝平小学校PTA会長 野崎 一

第45回東北ブロックPTA研究大会福島大会第一分科会「参加意欲の向上と組織の活性化」というテーマでパネリストとして参加させて頂きました。会場のコラッセふくしまには定員の300名を超える参加者の方々と、とても活気のある分科会となりました。



福島県桑折町立醸芳中学校の横山前会長からは、2年前の震災の際の福島のこと、その後の除染等、子どもたちへのケアがいかに行われたか、そしてこれから実施していかなければいけないことが話されました。

酒田市立第六中学校の三浦前会長からは前年の山形大会の実行委員長として運営から大会後の組織の変化、実行委員在中の単位PTAの変化など、大きい括りでのお話がありました。私の方からは「おやじ倶楽部」を題材に、単位PTAでの交流活動による先生、保護者の参加と、事業を通して活性化を促してきた体験を発表させて頂きました。

いずれも「すべては子どもたちのより良い環境を作っていくため」という目標を掲げ、どのように大人が動いていくのか？そして、同じ目標を掲げることによって結束していくことが達成する近道である、ということでした。

今後、子ども達が安心して学校生活をしていくために、学校、地域、そして我々保護者がつながりを持って積極的に関わって行くことが必要であると再認識した大会でした。

『ノー・メディア・デー』の発信を！

由利本荘市立鳥海中学校PTA会長 佐藤 吉則

9月7、8日に第45回東北ブロックPTA研究大会福島大会が開催されました。震災からの東北の現状をなままでお伺いし、ただ驚き的一端でした。

私は、第五分科会のパネリストを依頼され、テーマに掲げられた「家庭と中学校教育」について発表しました。

福島県小高中学校の末永さんです。「震災と原発事故が私たちに及ぼした影響」と題し、目に見えない放射線の恐怖。家庭、同級生との離散。半強制的な転校。外での運動・活動の制限――。家には帰れない仮設住宅の生活でした。しかし、元気な姿をWEBで配信・文化祭の継続、五校PTA共同「夏祭り」により子どもの笑顔が元気の源になり、教師との一致団結した光景でした。

岩手県陸前高田市第一中学校の熊谷さん(女性)です。津波により中心部市街地の公共施設が流失し、自宅も流され仮設住宅の生



活が続いております。

「ノー・メディア・デー」の実践の報告です。携帯電話やTVから離れた時間を設けて、家庭学習や読書に専念させようとして始められました。その結果、家族間の語り合いが生まれ、思わぬ副産物が生んだことが発表されました。

私は皆さんの発表を聞き、あまりにも秋田との生活環境の違いからとまどいを感じました。ふる里を愛し、生きる力を育むPTA活動として、親子体験学習とキャリア教育に協力した講演会を紹介しました。鳥海登山、川下り、湿原探索、ボランティア活動の老人宅の除雪、有識者の体験をされた講演です。

「教育の原点は家庭にある」と言われており、基本的な躰やあいさつなど日常生活そのものが第一の教育であり、親の責任とあります。学力日本一の秋田から「ノー・メディアデー」の提言を全県へ発信できたらどうでしょう。

元気を頂いた田部井先生の話

湯沢市立湯沢南中学校PTA会長 後藤 孝

登山家、田部井淳子先生による講演を紹介します。73歳とは思えない、滑舌の良さと声の張りは、寸分の隙間も与えず流れていきました。時折折合いを誘う話術は、もう脱帽。「元気を頂く」この講演は正しくそれでした。

友だちとシャンソンを習い、発表会までやっているという「怖いもの知らずの女たち」の話、又、被災地の子どもたちを富士登山させている話等、人生8合目から存分に楽しんでいる田部井さん。本当に素敵でした。専門外のことでも一生懸命に！「明日は〇〇がある」という毎日が、元気の源！だそうです。田部井さんの足下にも及ばないですが、これからも大いに楽しんで、PTA活動をしたいと思わせてくれた講演でした。その先には、人生8合目からがおもしろい、と思える事が待っているような気がします。

研究大会では、PTA会員の皆さんのために、そうです、あなたのためにあるんです。思わず頷いて笑顔になってしまう話が聴けます。新しい仲間との出会いが元気を与えてくれます。東北PTAの絆を確かめに……。

まんづみんな、来年は盛岡さ、行くべ、行くべ！！



研修会レポート

第61回 日本PTA全国研究大会みえ大会

第61回日本PTA全国研究大会みえ大会は一日目の8月23日に三重県内各地で11の分科会を実施。二日目の24日は、伊勢市朝熊町の県営サンアリーナで全体会があり、参加は約八千人でありました。開会式で、来賓の下村博文文部科学大臣の挨拶の後、大会宣言として、「家庭・学校・地域が連携を深める」「お互いの命、お互いの存在を大切にする」を心掛けPTA活動を推進することを決議しました。

PTA全国研究大会みえ大会に参加して 横手市立増田中学校PTA会長 佐藤 文浩

今年はPTA全国大会始まりの地である三重県に全国から多くのPTA会員が集まり、盛大に開催されました。

私は昨年の京都大会に続き2年連続の参加となります。初めて参加した昨年の大会で受けた刺激がとて大きく、今年も期待して参加しましたが、とても充実した大会だったと感じております。

初日、私が選んだ分科会は「国際理解」。これは「多文化共生」という、今後の日本に、秋田に当てはまっていく課題と考え、参加しました。

今、秋田県は人口減少の一途をたどっており、その対策は様々行っておりますが、おそらく地域の中に外国の方が増えていくことでしょう。多文化共生は、そのような状況への対応のみならず、子どもたちの未来を考えたとき、国際社会に生きるすべを身に着けることにもつながります。それは我々大人が多文化共生を理解してこそ、子どもたちの理解になると学びました。

2日目の全体会では、メインテーマ「輪・話・和」に基づき、家庭と学校と地域の連携したPTA活動、子どもたちの夢について語り合うPTA活動、和の大切さを伝えるPTA活動について学びました。

皆さん、全国大会は刺激になります。忙しいとは思いますが参加する価値は高いです。

この貴重な体験をさせていただきことに感謝申し上げますとともに、是非皆様にも味わっていただきたいと思います。来年は、是非！

“早寝・早起き・朝ご飯” = “大人の責任” 秋田市立大住小学校PTA会長 佐藤 寛子

全国PTA研究会において、「脳トレ」で有名な東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授の講演を聞きました。その中で「帰ったら皆さんに伝えてください。」と預かった3つの呼びかけをご報告します。「朝飯きちっと食べないと馬鹿になる！！」

朝ご飯を食べたか食べないかの差が、大学進学や就職、生涯年収にまで現れるというのは、川島教授、農水省や文科省のアンケート調査結果により周知のことです。しかし、おにぎりやパンだけではその効果は十分ではなく、おかずが多ければ多いほどすべての脳の機能が高く、少ないほどすべての脳の機能が低いとのことです。おかずの数が子どもの脳の発達と正の相関関係を示すデータが出てきたそうです。朝忙しいなら、前夜に、休日に、朝食の準備をし、タンパク質やビタミンをバランスよく摂取できるようにしましょう。

「スポンサーに抗議を！！」

子どもが見たいアニメ番組が夜の9時から放映され、夜更かしの原因となっています。以前、川島教授は講演の度に際に参加者に呼びかけ、テレビ局に放映時間が遅いと抗議しよう運動をしたのですが、効果が薄かったそうです。テレビ局は視聴者の言葉よりも、スポンサーの言葉を聞くはず…今度はスポンサーに親の言葉を届けましょう！！子どもが見たい番組は夜9時までに放映してほしい、と。

「(子どもが)寝ている間は携帯電話を預かる！！」

最後に…それぞれちょっと過激な呼びかけではありますが、「眠らない街を作ってしまった我々大人は、せめて子どもたちだけでも幸せにする責任がある。」というのが川島教授のもっとも伝えたかったことだと思います。

平成25年度 表彰一覧

平成25年度公益社団法人 日本PTA全国協議会会長表彰

■団体表彰

- 能代市立能代第二中学校PTA (PTA会長 松井 均)
- 由利本荘市立矢島小学校PTA (PTA会長 佐々木 正純)

■個人表彰

- 小田切 孝 幸 (県P連 副会長)
- 佐々木 謙 (県P連 副会長)
- 田口 寿 宜 (県P連 副会長)
- 野崎 一 (県P連 副会長)



平成25年度公益社団法人 日本PTA全国協議会65周年特別表彰

- 佐藤 弘 毅 (八幡平小 PTA会長)
- 高橋 久美子 (大館東中 PTA副会長)
- 塚本 真 一 (浄城西小 PTA会長)
- 佐々木 美奈子 (天王小 元PTA会長)
- 佐藤 信 子 (男鹿北中 元PTA会長)
- 鎌田 悟 (将軍野中 元PTA会長)
- 加藤 寿 一 (勝平中 PTA会長)
- 佐藤 吉 則 (鳥海中 PTA会長)
- 齋藤 聡 (平沢小 PTA会長)
- 齋藤 靖 (大曲中 PTA会長)
- 大山 肇 浩 (神代中 PTA会長)
- 高柳 信 (美郷中 前PTA会長)
- 小松谷 昇 (醍醐小 PTA会長)
- 堀内 勝彦 (雄勝中 元PTA会長)
- 長澤 善 徳 (県P連 前事務局長)

平成25年度秋田県 三行詩コンクール入賞者

■小学校の部

- 由利本荘市立由利小学校1年 きむらゆいな
- 由利本荘市立由利小学校2年 榎本 慧
- 由利本荘市立尾崎小学校1年 須藤 凜
- 由利本荘市立尾崎小学校5年 小川 結芽
- にかほ市立上郷小学校4年 高橋 美憂

■中学校の部

- 大仙市立仙北中学校1年 三浦 史貴
- 大仙市立仙北中学校1年 佐々木未夢
- 北秋田市立合川中学校1年 齋藤 羽生
- 北秋田市立合川中学校1年 工藤 遼
- 由利本荘市立矢島中学校3年 吉田 遥香

■一般の部

- 能代市立第四小学校PTA 三上 華子
- 男鹿市立船川第一小学校PTA 酒井 幸子
- 北秋田市立合川中学校PTA 松岡 初男
- 由利本荘市立由利小学校PTA 木内 伸
- 由利本荘市立由利小学校PTA 佐藤恵美子

優良PTA文部科学大臣表彰

PTA活動振興功労者表彰

受け継がれる思い



男鹿市立船川南小学校PTA会長
佐藤 孝

この度、男鹿市立船川南小学校PTAは、平成25年優良PTA文部科学大臣表彰を受賞いたしました。日本PTA創立65周年の節目に当る今年度に栄えある賞を頂きました事は、常日頃よりご支援下さる皆様方のお力添え有つてのことと存じます。心から感謝申し上げます。

現在、本校PTAは児童数51名、保護者会員数40名、教師会員数9名、全世帯がPTA会員として加入しています。総務、保健体育、教育広報の3部門の専門部で構成されており保護者と教師が全員各部に所属し企画、運営に当たっております。児童数の減少が続く中において保護者、児童、教職員が共に参加し親睦を図るPTA行事を実施しています。

2011年3月11日の東日本大震災以降、防災・安全に対する意識が大きく変化しました。本校PTAにおいても校舎の安全対策、通学時の安全確保など数々の問題点が協議されました。このような社会情勢の中、地域ボランティア組織「南っ子見守り隊」の方々に登下校時の安全指導にご尽力頂いております。警察署や消防署の職員を講師に招き実施する「交通安全教室」・「防犯教室」には子どもたちと共に参加して頂き保護者はもちろん地域の方々の危機管理意識も高まっています。また年3回実施される子ども会育成会連絡協議会において地域における子どもたちの様子や地域の子どもの会行事について情報交換すると共に災害等に備え子ども会間の連絡体制を整えています。

本校は高台に男鹿南中学校、県立海洋技術高等学校の3校が隣接する環境に有ります。この立地条件を活かした中学校との交流行事や海洋高校と連携した「避難訓練」等は他の地域では見られない活動として評価を頂きました。今後、近隣学区との連携が重要な活動項目になると思います。

これまで、本校PTAの活動にご支援、ご協力を頂きました皆様方に共通しますのは「子どもたちのために」と言う思いに尽きると思います。保護者、教職員はもとより地域の皆様方の思いに支えられ活動を継続して参りました。この思いを次世代に繋ぐべく今後の活動に取り組みたいと思います。

今後とも本校PTAにご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

これまでのPTA活動の思い出



秋田県PTA連合会 前会長
渡辺 正宏

去る11月19日、ホテルニューオータニを会場に開催された日本PTA全国協議会65周年の席上で、PTA活動振興功労者表彰の文部科学大臣賞を受賞いたしました。この度の受賞に対し、これまでお世話になりました関係の皆様方に心より感謝申し上げます。これまでのPTA活動を振り返ってみますと様々なことが思い出されますが、一番印象に残っているのは、日本PTA東北ブロック秋田大会についてです。開催時期には、県Pを卒業しておりましたが、実行委員長として関わっておりました。全国大会に次ぐ大きな大会でもあり、準備に2年を要し、各地区での分科会の内容もまとまり、あとは開催を待つのみという矢先の東日本大震災でした。一時は開催を見送るかという意見もありましたが、被災県の会長から「我々の元気な姿を見て欲しいので、ぜひやって欲しい。」という意見を尊重し、会期を2日開催から1日にし、分科会を中止し全体会のみにするなど、最初から計画を組み直しました。今思うと短期間でよく開催にこぎつけたものだと思っております。おかげさまで当日は、参加者から素晴らしいとの感想もいただき、あの感動は今でも忘れられません。

今までPTA活動に携わってきて、多くの仲間と出会い、数多くの感動を分かち合えた経験は、何よりの財産だと思っております。今はもうPTAからは遠ざかっておりますが、地域人としてこれからも子どもたちとの関わりを持っていきたいと思っております。

改めまして、これまでのご協力・ご支援ありがとうございました。

文部科学大臣表彰 受賞にあたって



仙北市立松木内小学校PTA会長
園部 敬史

今回、このような賞をいただき大変な驚きと、嬉しさが込められてまいりました。

全国数ある小学校の中でなぜ本校が選ばれたのか正直なところわかりませんでした。他校のPTA活動はどういった事しているのかわかりませんが、普通に毎年恒例の行事を行ってまいりました。

本校の活動内容を紹介したいと思います。まず本校は全校生徒数64名と少なく仙北市の端っこの山あいの中にあります。その中においてPTA活動しているわけですが必然的に親の数も少ない訳で、皆PTA組織の中で役についています。

本校では専門部会活動があり、総務部と運営部の二つからなり大きくくりの中で協力したり分担したりしながら活動を進めています。総務部では年2回の広報活動をしていて、「ひのき」の発行を7月と3月に入学特集号や卒業特集号を発行しています。また、PTA活動費の資金源として8月に空きびん回収を行い活動資金に充てています。運営部では、春に運動会への協力、11月には親子もちつき行事、また冬はスキー教室への協力参加なども行っており、皆で協力して活動しております。あとは学年部で一年生から六年生まで毎年親子レクリエーションを行っており楽しくやっております。

このように全会員が役員としてPTA専門部会に所属しており皆で協力し運営活動しています。この他にも地域の人と連携していろいろな活動しています。

特別な事はそんなにしていませんが、今回文部科学大臣賞をいただいで大変光栄であり、ありがとうございました。

感謝



秋田県PTA連合会元副会長
菅生 努

この度、「平成25年度文部科学大臣表彰」を受賞させていただきました。秋篠宮殿下をはじめ、たくさんのご来賓臨席の元、このような栄えある

賞をいただいたことは身に余る光栄であります。受賞にあたり、まず一番に感謝したいのは、私をこの世界に誘ってくれ、役員在任時ずっと一緒に頑張り、全力でサポートしてくれた吉田正子さんにです。吉田さんは子ども達が幼稚園に入ったときから、今もなお常に第一線でPTAの仕事に誰よりもがんばっています。まさに地域の宝です。この賞を吉田さんに、そして様々な協力をくださった各役員の皆様、PTA会員皆様に捧げたいと思います。次に感謝したいのは職場です。PTA関係の様々な用事で休みをいただくことが多々ありました。業務多忙時にもかかわらず、快く休みを取らせてくれました。社会貢献に深い理解を示している上司・同僚に恵まれたことは本当にありがたかったです。最後に家族に感謝です。夜間や休日、PTAの仕事で家を空けることも、学校に顔を出すことも多かったのですが、いやな顔せず理解し、陰ながら応援してくれました。現在PTA関連では学校後援会の仕事を残すのみとなりましたが、今後も今回の受賞を励みに、また受賞に恥じないように、子どもたちのため、地域のため少しでもお役に立てるようがんばりたいと思います。みなさん、本当にありがとうございました。

「大人が支える！インターネットセーフティ」の推進（事務局：秋田県教育庁生涯学習課）

「地域サポーター養成講座」ってどんな講座？

講座のねらい・特徴は？

- ★社会全体で子どもたちの健全なインターネット利用を支える「インターネットセーフティ」の取組の一つとして中学校区程度のコミュニティで保護者・地域住民等を対象に「ネットに少し詳しい」大人を増やすことがねらい
- ★平成25年度から3か年で、県内9地域を拠点に、モデル的に実施
- 【協働】 県PTA連合会、子どもたちのインターネット利用について考える研究会
- 【協賛】 ヤフー株式会社

保護者・地域住民等を対象とした講座

※勝平中学校区の第4回をのぞき、今年度の講座は終了しています。

【県北】鹿角地域 10～12月

- 小坂中学校区(全4回)
会場:小坂町交流センター
- 花輪第一中学校区(全4回)
会場:鹿角アメニティパーク

【中央】秋田地域 10～1月

- 勝平中学校区(全4回)
会場:勝平地区コミュニティセンター
- 秋田北中学校区(全4回)
会場:秋田市北部公民館

【県南】横手地域 10～11月

- 山内中学校区(全3回)
会場:山内小学校
- 横手北中学校区(全3回)
会場:横手北中学校

教員を対象とした講座

会場の設定・開催の周知・講座運営等の協力・・・かつのPTA連合会、秋田市PTA連合会、横手市PTA連合会

- 9月 鹿角地域生徒指導研究推進協議会研修会(十和田市民センター)
- 10月 県立横手高等学校職員研修会(県立横手高等学校)
- 11月 横手地域生徒指導研究推進協議会研修会(県立近代美術館)



鹿角・花輪第一中学校区(第一回)の様子

保護者向け講座の具体的な内容は？

- ★[状況・課題把握][背景構造][対処方法]の3回+[実践支援]で構成(各回90分)
- ★対象に応じて、実機体験・グループワーク等、実践的な内容が盛りだくさん
- ★受講者への期待は「正しい知識」「各家庭での実践」「周囲への話題提供」

第一回【子どもたちのインターネット問題を正しく知ろう】

- インターネット活用を求められる時代 ●どんな機器でもネットにつながる！？
- 発信利用に伴うトラブルの理解と対処 ●ネットの四つの特性の理解が重要

第二回【子どもたちに人気のサービスの実態と理想的なインターネットデビュー】

- 前回質問の回答と解説(以降、同様) ●人気サービスが持つ共通の構造
- サービスの要素ごとの注意点 ●ネットの理想的デビューは「階段型」

第三回【さまざまな保護者管理機能と家庭での取組のヒント】

- 主な機器についての管理ポイント ●フィルタリング等の保護者管理機能
- 子どもとの対話が途切れない取組方 ●大人も変わる必要がある

第四回【家庭・地域でのこれからの課題】

- ※第三回の講座終了後に家庭や地域で実際に取り組んだ上で実施しています。
- 実践の振り返りと共有(ペアワーク) ●仲間を増やすために(グループワーク)

【今後の実施予定地域】

●H26年度

- 【県北】大館・北秋田
- 【中央】男鹿・湯上・南秋
- 【県南】湯沢・雄勝

●H27年度

- 【県北】能代・山本
- 【中央】由利本荘・にかほ
- 【県南】大仙・仙北



秋田・秋田北中学校区(第四回)の様子

受講したPTA会員の声を紹介します！

子どもたちにどう注意していいかわからなかったのですが、仕組みが分かり、子どもとよく話し合えます。

常に子どもの気持ちを受け止め、気づいてあげるのが大事であることを改めて確認させていただきました。

子どもへの接し方に納得しました。インターネットを怖がらずに上手に利用できるようサポートしたい。

ネットは難しい、怖いとの思いが強かったが、世界の幅が広がることが分かった。うまく付き合っていきたい。

子どもより詳しい大人は少ない・・・だからこそ、保護者同士の助け合いが必要です。「子どもたちの健全なインターネット利用」・・・講座を受講し一緒に考えてみませんか！

【問い合わせ】秋田県教育庁生涯学習課 社会教育班 TEL 018-860-5184

「書き損じはがき」集めています(お願い)

今年度も「書き損じはがき」の拠出運動を実施いたします。収集されたはがきは換金されて県内各都市PTA連合会の活動資金として還元されます。ご協力お願いいたします。

収集するはがきは、書き損じはがき(年賀はがき・普通のはがき)または古い未使用のはがきです。はがきは学校にお届け願います。【収集期間:平成25年12月～平成26年2月15日】

東日本大震災復興支援 第2回 秋田県PTA チャリティーフェスタ

平成25年11月16日秋田イオンセントラルコートにおいて、素晴らしい演技・演奏を披露してくれた12団体、気仙沼市PTA連合会からの出店などのご協力のもと、多数の観客に見守られて開催しました。チャリティーの募金額7万円は気仙沼市PTA連合会を通じて、被災地の復興支援としました。



PTAや企業の研修会に、少年自然の家を利用できます！

少年自然の家では、プロジェクトアドベンチャー(PA)という人間関係づくりのプログラムが人気です。PAは楽しみながらチームワークを高める効果があることから、学校やスポ少・部活動の利用だけでなく、スポーツ団体や教員の研修会など、大人向けのプログラムとしても利用されています。皆さんも、少年自然の家を会場に、普段とひと味違った研修会を企画してみたいはいかがでしょうか。



大人も楽しめる！PAの様子

- 大館少年自然の家 Tel.0186-43-3174
- 保呂羽山少年自然の家 Tel.0182-26-6011
- 岩城少年自然の家 Tel.0184-74-2011

携帯電話からも会員登録OK!ますます便利に!

えきねっと

会員募集中

www.eki-net.com

くわしくは「えきねっと」ホームページをご覧ください

会員登録 無料



「えきねっと」なら
パソコンや携帯電話で
きっぷの申し込みが
できてとっても便利

「えきねっと」なら
乗車日の1ヵ月+1週間前に
指定席の事前購入登録ができます。

※但し、携帯電話からのご予約は乗車日の1ヵ月前(午前10時)からとなります。
※指定席券売機で購入できます。



日新火災



お客さまひとりひとりと、
顔の見えるおつきあい。

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔の見えるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255